

令和6年12月21日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和6年度 第11回

乙巳・・・脱皮し挑戦する年

おはようございます。ただ今、岡本理事長から中斎塾フォーラムの今年一年の振り返りと、来年にむけた新組織、取り組みなどをお話いただきました。新しい動きが始まったなと実感しました。大変良いことだと思ってお聞きしました。

来年の話をされたので、そこから入りましょう。来年は巳年と世間では言いますが、中斎塾フォーラムでは、巳年だけにとどめずに干支で考えます。来年は乙巳（いつし・きのとみ）です。季刊誌「知足」新年号に、乙巳がどういう意味かを書いております。また、皆様方にお送りする四季だより（年賀状）にも書きました。

「乙」は、漢字から見ると、乱れる・曲がるという意味合いです。「巳」は蛇です。蛇は脱皮をして新しい体を手に入れたところで、また脱皮する。脱皮に次ぐ脱皮で、挑戦をしていく象徴です。つまり、来年は脱皮を続けて進んでいくけれども、ぶつかって曲がってしまう。曲がった方向で、どんどん進んで行き、またぶつかる。曲がることによって乱れるけれども、脱皮を続けることによって、挑戦しながら大きくなっていく。自分が脱皮をし、新しい自分に大きく生まれ変わっていく。非常に良い挑戦の年であると私は解釈しています。今現在自分で抱えている大きな問題があるとしたら、それを解決していくためにエネルギーがどんどん出る。自分自身を変革する年である、そうお考えいただくと良いでしょう。

ちなみに私自身のことを少し申しますと、来年のことを考えていたら、頭の中に浮かんだ言葉が、自分自身の20カ年計画です。20年というのは、私の母親が97歳で亡くなりましたから、親に並ぶのがちょうど20年です。そこで、「深澤賢治20カ年計画のスタートの年」と書いて、これから20年の人生をイメージして考えました。骨子になるものだけお話しします。

第一は、健康でいることです。健康を考える上において、一つは体を柔らかく保ちたい。そのためには、真向法を一生懸命やろうと思っています。体が柔らかい人は、頭も柔らかい。頭が柔らかいということは、DXなど世の中の流れに柔軟に対応できると考えていま

す。二つ目は、詩吟を一生懸命やる。詩吟は誤嚥対策です。

日本語の重要性

DXという言葉が出ましたが、私はよく分かりません。皆さんはどのような意味かお分かりでしょうか。DXとはデジタルトランスフォーメーションだと言われても、意味が分からない。やはり日本語で言わなければいけないだろうと思います。今までは新しい横文字が出てきた時、日本語に直したらどうなのか専門家に聞くと、だいたい日本語らしいものが返ってきました。ところがDXなどは、日本語になっていません。仕方なくデジタルトランスフォーメーションと覚えましたが、やはり腑に落ちない。来年は、DXといった言葉を日本語に直すにはどうしたらよいか、もう一回よく考えてみたいと思っています。

今は英語を日本語のように使いこなす人が増えているから、それはそのまま英語でもよいのかなという気もします。しかし訳の分からない横文字を分かったように受け止めて、そのままカタカナ言葉に変えて通用させていくことが、最近非常に多い。これは日本人らしからぬ動きです。

例えば漢字は、中国から伝わってきた時は白文ですから、そのまま読んでも意味が分かりません。当時の日本人は意味の分からない中国語を分解し、つなぎ合わせ、分かりやすい言葉に変えてしまった。日本語に読み直しをして咀嚼したわけです。漢字だけではありません。日本は外国の文化を吸収し咀嚼して、日本流に作り変えることによって日本の文化が成り立ってきたのです。これが、日本人の日本人たる所以です。

残念ながら、最近の政府の発表する内容は訳が分かりません。インボイス？ マイナンバーカード？ 等々、カタカナ言葉に置き換えて、国民を何となく分かったような気持ちにさせてしまう。これは政治家が劣化した証拠だと思います。日本語を破壊しています。横文字を日本語に直すことも出来ない政治家が劣化し、それを正さなければいけない言語学者や漢字を専門に扱う学者も劣化したから、訳の分からない言葉をそのまま横文字で言うわけです。コロナ禍の時も、政治家はきちんと日本語で説明していませんでした。医療に携わる人たち、医学を専門とする学者も同じく、訳の分からない説明しか出来なかったと思います。

日本語が日本語でなくなったことにより日本の国の劣化が進んだ。私はそれを腹の底から良くないと思っています。横文字を日本語に置き換えて理解する、それが日本の日本人たる所以である。それを私は明確に意識したので、来年は日本語の復活をしなければいけないと考えています。

中斎塾フォーラムの方向性

中斎塾フォーラムはそれを大きく世間に向かって打ち出していくべきであると考えているところに、岡本理事長が開会挨拶で「中斎塾フォーラム建学の精神である『足るを知る』を勉強し直し、世のため人のためになるような中斎塾フォーラムの考え方を世の中に広げていきたい」と言われたので、我が意を得たりと感じました。

それには、これからお話する天風先生の「十牛図」の最後の「入麩垂手」が非常に参考になります。

「入麩垂手」は、天風先生の説明では布袋様を出しています。「麩」とは部落です。部落がピンとこなければ、お店とお考え下さい。布袋様がニコニコして部落なり店に入って、さようならと出ていく。その間に布袋様は説法するわけでもないけれども、中にいた人たちは何となく心が穏やかになって、気持ちがすっきりする。布袋様と同席することによって、心が少し汚れた人もなんだか心が洗われて爽やかになる。店の雰囲気も良くなっている。布袋様は世のため人のためとか、そういうことすら考えないで、自然体で入ってきて自然体で出ていくけれども、それに心が打たれて、周りの人たちは一步レベルが上がる。悪い事をしようと思っている人は、しないように気持ちが少し変わる。これが十牛図の最高の「入麩垂手」という段階です。

中斎塾フォーラムの基本理念である「足るを知る」という考え方は、「入麩垂手」を目指すとお考えいただくと良い。「入麩垂手」は分かりにくければ、世のため人のために尽くして世の中を良くしていきたい。少しずつでも私たちが考えていることを実行していけば、世の中のためになる。結果として、回り回って自分たちのためになる。・・・そういう考え方です。

この考え方は世の中に沢山あります。「盥の教え」もそうです。水を張った盥に自分の欲しいものが浮かんでいる。それを取りたいと思って自分の方に水を寄せようとする、かえって反対側に行ってしまう。逆に、世のため人のためにと水を向こうへやると、結果として自分の方に寄って来る。

一つ事例を申します。先月、金沢にある中古車のリサイクルをしている会社にお邪魔しました。創業者の会長さんは私と同年で、木内孝さんにご縁を戴きました。現在は息子さんが継いで2代目の社長です。本業の他に、会社で農園をつくって作物を育てています。現在、シムックスで農業プロジェクトを始めている関係で視察に伺いました。

伺うにあたってホームページを拝見したら、行動指針として「盥の法則」を掲げて、「相手に喜んでいただいた結果が、自分たちに返ってくるという利他の心を大切にしています」とありました。息子さんは社長になった時、ずっと親について仕事をしてきたから社長は

それほど難しいとは思っていなかったそうです。ところが実際は、ずっと黒字で来た会社が、自分が社長になったら赤字になってしまった。二代目社長として儲けようと頑張ったが赤字はそのままで、もう社長は降りたいと思ったそうです。その時、会社の指針である「盥の法則」に気付き、取引先に儲けてもらおうと考え方を変え、頑張った結果黒字になった。盥の教えが活きたわけです。

岡本理事長の話から、入麩垂手で布袋様の利他行（世のため人のために尽くす修行）を紹介しました。

世のため人のためになることとは何か・・・。

日本は今、劣化が酷い。それは政治家が劣悪化して、政治屋になったからです。二世三世がどんどん出てきて、ずぶずぶの泥沼の中に浸かってしまった。今の政治家ではどうにもならない状況です。おまけに実際に政治家を動かしている官僚も劣悪化しています。官僚が良くないのは、新しい水が入らないからです。一つのシステムを作ったら、その通りやっていくわけです。コロナの場合も、全くそういう状況で進んでいました。日本の国を劣悪化させた重宝人は、官僚化した日本の国のシステムだと思っています。日本の仕組みが既に劣悪化してしまったので、完全に換えねばならない時期に来ているのだと私は思っています。

では、我々は自分たちの子孫のために何ができるか・・・。

日本語を日本語として生まれ変わらせる。あつという間にカタカナ文字の外来語が増えてしまって、それで何となく分かった気になっている、この日本人の劣悪化したところを直さなければいけないと思います。それには、先ほどのDXのように訳の分からないカタカナを日本語として焼き直ししなければならない。それができるのは中斎塾フォーラムだと思います。色々な実例を交えながら世の中に説いていく、そういう運動にしていきたいと考えています。

これは「深澤賢治 20 ヶ年計画」の中から頭の中に湧いて出ました。それを皆様方と一緒に学んで、日本の「失われた 30 年」なるものは、ふっと丸めて飛ばしてしましましょう。一人ひとりが新しく生まれ変わっていく、ちょうどいい年回りになったと思っています。ぶつかりぶつかりするけれども、脱皮をすればまた前に向かって進んでいくエネルギーが湧いてきます。是非ご一緒に挑戦しましょう。

中村天風先生（第 5 回） 十牛図

では、本日のテーマに参ります。中村天風先生の第 5 回目です。

前回、「十牛図」の 1 から 8 までお話をしました。「十牛図」は自分の人格が完成され

てくる、人としての道を10段階に分けています。最初は「尋牛」ですから、真っ当な人間になりたい、良い人生を送りたいと思う、「発心」です。二番目の「見跡」は、素晴らしい人に会ったとか書物を読んだとか、手がかりを見つける。

1から8までは、自分は人としての道をどこまで追及し、どこまで階段を上ってきたかなど、自分で自分を振り返る手がかりになります。

8番目の「人牛俱忘」は円相です。自分で自分を一生懸命鍛え、ついにここまで来たかと思ったら、筆に墨をたっぷり含ませて丸を描いてみる。これが難しく、邪念があると丸が描けません。仏教で悟りを得た人が素晴らしい円（円相）が書けるということです。人としてのレベルが分かるころの合格点が、丸がきちんと描けると前回お話ししました。

本日申し上げるのは、その先です。

9、返本還源（へんぼんげんげん）

「染めいだす 人はなけれど 春来れば 柳は緑 花は紅」

天風先生は、悟り尽くしてもやはり花は紅で柳は緑だった、と解説しています。柳は緑で花は紅、そんなこと当たり前で、誰も不思議に思いませんね。他の言葉で言うと「大賢は愚の如く、大人は小児の如し」、素晴らしく偉大な賢い人物は、一見すると愚か者に見える、悟った人間は赤子のようだ。見るからに偉い人に見える、素晴らしい人だと思わせるような人は、まだまだ出来ていない。俺は偉いぞと振舞うような人は、本物ではないということです。

天風先生の『盛大な人生』では、宮本武蔵の剣の極意が紹介されています。細川公から、「百回以上もの真剣勝負で負けると思った事はなかったか」と聞かれ、武蔵は、「私はもともと師匠から剣術を教わったものではありません。山の中で手ごろな木の枝を切って、それを何十本も吊るしておいて手当たり次第に殴りつけ、跳ね返ってくる枝を必死に避けて打ち返しながら間合いを極めたのが私の兵法です。木は恐れを感じません。けれども人間は恐れるから、向かって行く太刀を逃げます。木は逃げませんから時々私はぶたれますが、人間にはぶたれたことはありません」と言ったそうです。赤子の心、無心になれば恐怖も感じないし、尊大ぶるとか偉ぶるといふ気持ちもないというわけです。

人間は生まれた時は柔らかく、いくらでも曲がりますが、年をとってだんだん固くなり、死ぬ時はカチカチになります。けれどもお迎えが近づいて来るにしたがって、赤ん坊のようになると、これは素晴らしい。最後の布袋様の段階に入ります。布袋様のようにニコニコしてあの世に行くお迎えを待てば、周りも何となく肅然として、赤ん坊に帰って

あの世に行ったね・・・という具合になる。それが最後の「入麿垂手」で、布袋様の域に達します。

10、入麿垂手 (にってんすいしゅ)

「身をおもう 身をばこころぞ 苦しむる あるに任せて あるぞあるべき」

入麿垂手は、人としての道を突き進んでいった最後の境地です。先ほど布袋様の話を致しました。布袋様は人が褒めようと腐そうと、いつもニコニコしている。寄ってくるだけで、周りが和やかな明るい雰囲気になります。

中村天風先生の「十牛図」の説明は、これで終了です。

恒例の質問

恒例の質問を致します。今年一年、どうでしたでしょうか。

○今年一年間、良い日が続いたと思う方

念押しすると、良い日・悪い日は自分の心が決める。私どもの学びはすべて主観です。主観で、良い日が続いたなあと思ったら、良い日なのです。皆さん手が挙がりましたから、良うございました。

○一年間、嘘は全然つかなかった方・・・手をピンと上に挙げて下さい。

比較的嘘はつかなかった方・・・軽く挙げて下さい。

ありがとうございます。どちらでも手が挙がったら結構です。

○一年間、有難うと言いつけた、言われ続けた方

友人に何かをしてあげて、もし相手が有難うと言わなかったら、こちらから有難うと言ってあげましょう。そうすると相手も変わってきます。そうやって周りを変えていきましょう。

○一年間、身体の手入ををよくやった方

身体の手入れが出来なかったなと思ったら、夜眠る時、息をはあ一つと吐いて、鼻からす一つと吸う。これを10回やると目が覚めてしまうから、3回ぐらいやれば身体の手入れになります。出来れば、息を吐く時は頭の中のもやもやしているもの全部出し切る。そして鼻から吸う時は、良い空気入ってこい！と意識するとよろしいでしょう。

○今年一年、自分磨きをよくやった方

○一年間良かったなあ、しみじみ思えた方

最後の質問、「眠る直前、明日を過去形で考える」はなかなか難しいですね。今日は良かったなあとしみじみ思う。満足出来た、良かった良かったと自分で自分を褒める。そういう気持ちになって眠れば良いでしょう。ですから、少し変えてお聞きしました。

令和6年を考える

テーマ「令和6年を考える」に参加します。今年ももう少しで終わりますから、令和6年を締めくくって、来年の話を少し致します。

今年一年、「日本の国がどん底まで落ちる」と言い続けたけれども、いつまで経ってもどん底に落ちません。来年は、どん底に落ちると思っています。以前から私は、海の中をずっと落ちて行って海底に着くと、ポンと反転し水面に浮上すると申し上げています。

今年は、もうすぐ底に着くぞという予感がある。なぜならば日本の国が劣悪化したからです。コロナはいったい何だったのか？ 落ち着いて考えると、日本という国が劣悪化した証拠です。インボイスによって何か起きたのか？ インボイスは、小規模事業者は潰れなさいということです。マイナンバーは、中小零細企業は潰れなさいという政策です。

マイナンバー保険証に至り、初めて国民の目にはっきり見えてきたのは、大企業と厚生労働省（官僚）と政治屋、それぞれが劣悪化して癒着したことです。マイナンバーで大企業7社か8社が既得権益をがっちり持つ利権構造が出来ていた。大企業はそのお返しで、政治家に何億だか知りませんが献金をしています。裏金議員のようなちっぽけな話ではありません。官僚側はどうでしょう。厚生労働省の天下りが大企業にどれだけいることか。大企業、官僚、政治家が利権構造を作って癒着をし、日本を食物にしている。そういう図式が明確に見えたわけです。「日本の国のために」と口先では言うけれど、やっていることは、全部自分たちの懐に入れていていると感じます。

世界全体でグローバリズムがもう終焉を迎えました。目を転じて日本国内を見れば、日本は少子高齢化でまっしぐらに消滅する方向に進んでいます。大企業、政治家、官僚の癒着構造が行き着くところまで行って、坂道を転げ落ちるスピードに拍車をかけている。ですから、もうすぐ底に着く。これが今年の締めくくりの話になります。

来年の干支は乙巳です。冒頭に申し上げたように、脱皮に次ぐ脱皮、油汗を流しながら挑戦し、また挑戦する。自分自身は変えられます。自分自身が変わることによって、日本の国が復活に向かって浮上し始める。来年はそういう素晴らしい年になると思っています。そこまでいかなければ、露払いの年には間違いなくなると思っています。脱皮しよう、変えよう、新しいことに挑戦しよう、そう思う人にはとても良い年です。大きな問題を抱えている人は、来年は解決する年回りです。ですから血反吐を吐く思いでやってみると良い。そうすれば解決しないものはありません。

もしも解決しなければ、全部投げたてしまつて丸裸になり、全てゼロという実感が湧いたなら、もう一人の自分が生まれ、知恵を出す筈です。自分が今まで体験したことのないようなエネルギーが身体の奥から吹き出します。但し、それは自分の命と引き換えです。なぜなら、自分が死ぬかと思うような体験をしなければ生まれて来ない。夢や希望を実現しようと思ひ、命がけでやっけていなければ、そこまていきません。そういうエネルギーが湧いて出る年、それを実感しなければ露払いの年だと思つて下さい。ですから来年はビッグチャンス年。そのつもりで来年を迎えられると良いと思ひます。

中齋塾フォーラムとしてやるべきことは、是非、日本語を日本語たらしめる運動をしましょう。カタカナは日本が發明したから良いのですが、横文字をそのまま言わない。DXをデジタルトランスフォーメーションと言わない。日本人を日本人にたらしめる、その大きなヒントが、横文字を日本語に置き換える運動、日本語で解釈する運動だと思ひています。皆さんがそういう運動をやりたいと思ひ、周りにその輪を少しずつ広げていけば、中齋塾フォーラムが20周年に向けて爆発する、そういう方向に向かつていくと思ひています。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。